

同窓会報



鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517

TEL 代表 鳥羽(0599)25-3137

FAX 鳥羽(0599)25-6941

振替番号 名古屋5-846

変革期を迎えて

会長 和田春生

今や我が国海運界は大きな転機に直面しています。しかも、過去の循環的好不況の波とは異なり、日本船舶を主体としてきた我が国海運と船員の職場が、構造的な変革の波に揉まれているのです。

戦後高度成長期からオイルショックの頃まで、外航日本船舶の日本船員の総数は概ね4万人程度でした。それが今では約2万人に減少し、なおその半数ほどが過剰とされています。ために官労使の間では、その対策が深刻な課題となっているのです。

一方「混乗船」と呼ばれる外航船舶が日本海運の中で急増し、主として日本人船舶職員が外国人クルーと共に乗り組んで、それらの船を動かしています。また、そうした業務について国の法律を守り適正に行なつて関係会社が集まり「国際船員協会」という団体をつくり、新しい事態に対応する環境改善に努力しています。

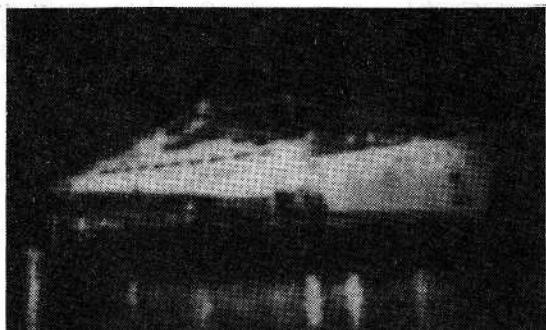
この協会の事務局長は本校同窓ですが、協会加盟27社の扱い船舶だけでも約300隻。船員総数7000人に達し、日本人船舶職員は1300人もいるのです。

一方、日本人船員による近代化日本船は300隻前後が計画上の数字です。あと二、三年で現在の過剰船員対策が一段落しますと、それらの船舶要員として商船高専卒業生の採用状況も現状よりは改善されるでしょう。しかし今後は、日本人船舶職員にとつて混乗外航船の職場の方が一層大きくなっていく趨勢にあります。

言うなれば船員職場の国際化ですが、本校を巣立つ後輩諸君も世界に通用する第一級の船舶職員として、この変革の波を越え外国人船員から信頼され活躍する人材が増えていくことでしょう。

片や学制の改革で今後は技術工学系の学科からの本校卒業生が次第に増加していきます。すなわち母校鳥羽商船が海から陸にも翼を広げていくことになるわけです。

同窓会としては、こうした多面的な変化に目を向けながら今後の在り方を考えしていく必要があると思います。同窓会会員各位のご協力を願つてやみません。



夜空に浮ぶORIANA号

レストラン、喫茶などもいくつも用意され、会員制のバーも設けられています。船内には海や船に関する各種の展示があり、若い年代から年輩まで広い層の利用が見込まれています。

またオリアナ・シアターと名付けられた船内劇場では立体映像が楽しめるようになっています。会員の皆さんの中でも本格的な豪華客船に乗船されたことのない方もあるかも知れません。九州方面でクラス会などを開催される際はぜひ利用されたらと推薦申し上げます。

なおオリアナ号の要目は左記のとおりです。

総トン数	四一、九二〇トン
全長	二四五、〇六m
船幅	二九、五七m
船室数	九〇三室

開に先立つての七月二十八日のオープニング・セレモニーに出席させて頂きましたが、さすがイギリスの豪華客船だつただけにすべての面で圧倒される思いがしました。船橋、機関室などは見学し易いように改造され、巨大なボイラ、発電機、スタビライザなど専門家が見ても大変勉強になるように思われました。スクリューやアンカーレは見易いように前部のデッキ上に立てられて表示されており、写真を撮つて人の大きさと見比べれるよう考慮されているのには感心しました。

切角の御招待ということで、公

オリアナ号の営業時間は、博物館・屋内、屋外展示見学コースが

九時から十八時、オリアナ・シアターは十時半から二十一時半といふように施設によって異つておりますので、電話でお問合せを願ひます。

○九七七一二五二一一（落合記）

オリアナ号の営業時間は、博物館・屋内、屋外展示見学コースが

九時から十八時、オリアナ・シア

ターは十時半から二十一時半とい

うように施設によって異つてお

ります。

○マイコン講座

七月二十七日から五日間、伊勢志摩地区の中学生を対象とした恒例のマイコン講座が開講されました。ベーシックの入門・基礎・プログラミングが内容ですが、四十名募集に対し十五名の参加と、昨年より少数なのは残念でした。

○進学説明会

七月二十九・三十・三十一日の三

日間、来年の受験生を対象とする

進学説明会が、県下の中学校先生

・生徒を招いて行われました。午

前は学校概要の説明と校内見学、

午後は鳥羽丸による菅島一周の体

験航海が実施され、先生五十五名

学校だより

○鳥羽丸・カツター巡航

七月十四・十五日両日、三年生有志を対象としたカツター巡航が

伊勢湾・三河湾で実施されました。

○海洋教室

本年は、学生二十九名が三艇に乘組み、初日は伊良湖でキャンプをし、二日目は篠島で宿泊する予定を台風の影響で変更して、鳥羽丸に曳航され、夕刻帰校しました。

○派遣教官の交代

愛知県の小学校四年生が四十二名参加して、カツター・手旗・結索・水泳訓練・航海体験の話と映画鑑賞が行わられましたが、彼らの熱心さを本校学生は多いに学ぶ必要がありそうです。

○新和海運株から出向されていた

佐藤久米男（S49E）教官が、二年半の任期を終え、八月三十一日付で退官し、海上復帰されました。

交代として、大洋商船（株）の山本孝弘（S49E）教官が、機関学科助手として着任されました。両氏の今後の活躍に期待しています。

○卒業式

十一月七・八両日、第二十二回海学祭が開催されました。初日は校内で体育祭が行われましたが、

三年來の女子学生入学で、各種競技も華やいだ雰囲気となりました。

二日目は、校内と鳥羽丸を主体とする海岸が一般公開されました。

○海祭

今年のテーマは「Explore our future」（未来を切り開け）といふものでした。テーマと実際の展示とのズレはあるものの、熱心な

学生は二日連続徹夜の準備で、張り切つておりました。ただ午後は

強風のため、「あさま」・カツタ

会・奨学後援会共催の祝賀会が開催されました。卒業生の顔は意外に明るく、若者のバイタリティに魅了されました。

今年の海上就職率は、N科で三割・E科で二割ですが、円高影響でここ当分、明るいニュースはないそうです。

式後、第一体育馆で学校・同窓会・奨学後援会共催の祝賀会が開催されました。会場は第一体育馆で、N科で三割・E科で二割ですが、円高影響でここ当分、明るいニュースはないそうです。

今年の海上就職率は、N科で三割・E科で二割ですが、円高影響でここ当分、明るいニュースはない

うものでした。テーマと実際の展示とのズレはあるものの、熱心な学生は二日連続徹夜の準備で、張り切つておりました。ただ午後は

強風のため、「あさま」・カツタ

ー・ヨットの体験乗船が中止とな

り、海岸地帯から一般客の足が遠のいたのが残念でした。

◎攻玉社中学校部生徒来校

十一月十四日、攻玉社中学校部の先生六名と生徒三百二名が、関西方面への修学旅行の途次来校され、近藤先生碑に参拝後、校内を見学していかれました。例年来校され、姉妹校としての交流を深めていかれますか、本校学生が攻玉社を訪問する機会が全くないのは、どう

かと思われます。

◎秋季講演会

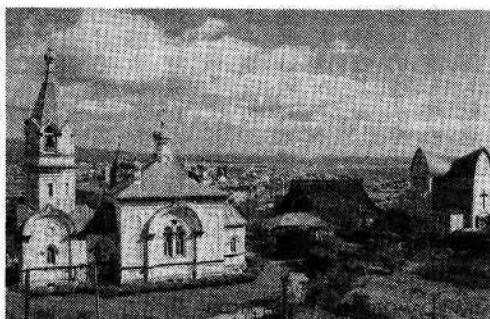
十一月十九日、三重大学助教授山際昭男先生（脳外科専門）に、「それでも君は煙草をするか」の演題で講演していただきました。

実際にリアルなテーマで、学生は喫煙禁止上当然のことながら、烟草を常習する教職員にとつても、身のつまされる内容でありました。（中村記）

支 部 便 り

函館支部

「函館だより」



エキゾチックな函館風景

青函連絡船存続問題は、来年二月で廃止という決定が出され、いよいよ八十年の歴史に幕が降りました。本部の皆様にはとなりました。本部の皆様にはいろいろと御心配いただき、本当にありがとうございました。

ひと昔、三十名もいた同窓会員月十三日の青函航路最後の日まで

は、共に乗務し、それぞれの新しい職場に赴くことになります。

この夏、青函連絡船はいつもの年よりずっと多くの乗客で賑わいました。毎航海、積残し客が出るほど混雑で、十数年ぶりに階段規制をしたり、乗船予約券を配つたりと大忙がしの毎日でした。この賑わいの陰には首都圏での連絡船キャンペーンと、「E切符」というプレミアム切符の発売が大きく作用しているようです。特に「E切符」は大変なバーゲン切符で、一万五千円でJR東日本を三日間乗り放題というものです。

もちろん新幹線もOKですが、そのお客様さんが青森から函館までの往復四千円を追加して連絡船に乗る訳です。合計一万九千円で北海道旅行が出来るのです。ちなみに函館から東京まで、まとまにゆくと片道で一万八千五百円、寝台ですと、二万四千円かかります。

国鉄時代には考えられなかつた程のサロビスぶりに私達も驚いています。

さて、終航まであと三ヶ月の連絡船ですが、同窓会の皆様、是非すっかり雪景色になつてしましました。

昨年来とりざたされていました青函連絡船存続問題は、来年二月も一昨年来、転出が相次ぎ、今では十一名になつてしましました。

その十一名はといいますと、JR東、JR北海道、国鉄清算事業団、と所属はまちまちですが、来年三

月ばかりですが、国际的な明るい話題をつぶお届けします。

京浜支部

田春生同窓会長も名を連ねております。鳥羽関係ではほかに私も出席しました。集まつた人は大部分海事関係者でしたが、異色の人もまじり出席者約三百人という仲々の盛会でした。

「船長のオディッセー」は日本海事広報協会より発行され、一冊二千円（送料三百円）です。必読の書と思います。

左記に十月六日発行の朝日新聞の夕刊に掲載された記事をご紹介致します。

「日本海運界の最長老、森勝衛元船長（九七才）（米窪初代労働大臣と商船学校同期）の『長寿を祝う会』が五日夜、東京・平河町の日本海運俱楽部で開かれた。英國の著名作家パン・デル・ポスト卿（八一才）による、森さんとの半

世紀以上にわたる交流をつづった「船長のオディッセー」の邦訳出版を機会に、長谷川峻元運輸相、木村睦男前参議院議長・近藤鉄男通産相・大島渚映画監督・丸尾卓

潮氣あふれる会場に、森さんは船長の制服姿で出席。ロンドンから駆けつけたポスト卿と熱い握手を交わした。大正十五年、南アの港で人種差別反対論者として出会つたのがきっかけ。友情は第二次大戦を経てもゆるがなかつた。ボスト卿は映画『戦場のメリーカリスマス』の原作者でもある。

「日本男子として恥じないことをやつてきたまで」と森さん。

「偉大なる航海者に、尊敬と愛をこめて」と書かれてある。

当保養所は新型施設に生まれ変わったため、現施設は取りこわされ改築工事が行われます。約一年間の予定で十月一日から休業しています。

六十二年十一月には大型の立派な施設が出現します。クラス会等の会合には好適の保養所となるでしょう。

（浅野記）

支部総会報告

十一月二十七日例年通り東京ステーションホテルで、六十を越す同窓生が出席し盛会に行われました。

(手術経過大変順調) 最初に佐藤副会長の御挨拶で始まりました。先月名古屋での本部理事会での提案説明があり、それに対する建設的な良い御意見があれば本部迄寄せて頂き度い旨の御依頼がありました。

次いで東海大の茂在教授の「自

分の青春は鳥羽にあり。原籍は鳥

羽」と思い出と現在とのかわり

合いを熱い思いで語られた姿に一

同心を打たれました。長老の西さ

んの乾杯の音頭で立食パーティー

に移り、三々五々思い出話に花を

咲かせ始めた処、和田会長が郵便

基本問題調査会から来られて、御

挨拶に立ち、海軍環境の流れは合

理化と共に日本人士官の需要の減

少、混乗船の増加が必然となつて

おり、学校に於いても商船学科も

一クラスに減少、一般学科の増加

になつてゐる。

同窓会としても卒業して来る一

般学科の後輩を含めた拡大発展を

計る為、同窓会の名称の変更等を

含めて皆で考えて欲しい」と述べられました。

宴も更に進んだ所で新旧の校歌、

寮歌、在校時に口遊んだ歌が出て

宴を盛り立てた。定刻になり同窓

会万才の三唱と共に散会になりました。

した。

今回一番嬉しかった事は、参加者の若返りであった。兼ねて同窓会を発展させるには、若い人達に魅力ある集いにするしかない」と云う同窓一同の願いが、若い人達の努力で実現した事に外ならない。

六十年卒、六十一年卒と云う胸につけられた名札を見て、胸を打たれ感激しておられた大先輩の方々の御意見がどれ程多かった事か。

今後も更に益々若い人の姿が増える事を祈っています。同窓会の発展は若い人達の双肩にあり、若い人達が主体となって、自由な、愉快な集りにするか、大先輩の智慧と力を引き出し乍ら考えて同窓会を推し進めて頂き度い。

支部も転進し、海から陸への時

の流れに則し、今迄支部の運営を

滑らかにやつて来た事務局を、野

田理事始めとする岡田商船グル

ープから、同窓会に御理解のある

山本社長のウェット・マスター

グループへハトントップされました。

長い間事務局を切り廻して頂いた岡田商船グループの方々本当に

御世話になり有難う御座いました。

又ウェット・マスターの方には

御世話になり有難う御座いました。

今後共同窓会の発展の為宜しく御

願い申し上げます。

(淺野支部長代文責千々波)

名古屋支部

昭和六十二年一〇月一日名鳥会幹部会を支部総会に先だち議題等

(事業年度を変更して本部と足並み揃えると共に会計監査の選任そ

(他) を審議するため会合を浜鮎で開催した。

出席者は支部長山崎修(

S16N) 山本太郎(

S19N) 村井憲次(

S19E) 堀内進(

19) 12E) 加藤喜作(

S22N) 春口正

一(

S30E) 船橋晴雄(

S39N) 小林正司(

S43N) 加藤伸吾(

S52E) 浅井英輔(

S52N) 計一〇名

昭和六十三年度総会を十一月十四日夕方より名古屋の中心街巣にあ

る中日ビル五階中日パレスで開催

滑らかにやつて来た事務局を、野

田理事始めとする岡田商船グル

ープから、同窓会に御理解のある

山本社長のウェット・マスター

グループへハトントップされました。

長い間事務局を切り廻して頂いた岡田商船グループの方々本当に

御世話になり有難う御座いました。

又ウェット・マスターの方には

御世話になり有難う御座いました。

今後共同窓会の発展の為宜しく御

願い申し上げます。

(浅野支部長代文責千々波)

(3) その他

案又学校名を残す問題も多難との事。きびしい海運界を反映して大変革期を迎える学校の近況と将来について説明を受ける落合

本部理事からは不況下同窓生から

寄せられる本部への不満苦情や無

関心が増え母校出身教官の苦し

い立場に対する深い理解と一人一

人の協力支援が不可欠であること

を深く訴えられ反省すべき点を痛

感した。

松浦幹氏(静岡市)(S21N)土屋

和男氏(沼津市市会議員)を通じて

分離独立について検討していると

説明された。浜松市以西の同窓生

について支部長より六十一年十月二

日役員会開催(十名出席)十一月

十五日総会開催四四名出席。名鳥

会創立二十五周年記念として歴代

日役員会開催(十名出席)十一月

十五日総会開催四四名出席。名鳥

センター勤務の（S 30N）江頭昭雄氏はジーエルシッピングKKへ
（S 37N）藤原隆久氏はKラインへ
（S 43E）大東達明氏はNYKへ復帰される（S 34N）野田則之氏MO
名古屋支店船長）は名古屋港運協会港務委員を二年四ヶ月港務委員
長一ヶ年と活躍されましたが十二月中旬に海上復帰されます後任は
（S 36N）村田勝久氏が勤務。六二年九月二五日卒業生の名古屋地区
への就職は（S 62N）青山哲也、中川輝彦両兄は東海協和KK（同窓
生六名）（S 62E）向井充彦はトキワエンジニアリングへ（62E）池田
義昭君は三昌工業へ、また（S 55N）山田哲也君は六三年四月一日
より名古屋港管理組合へ就職が決まりました尚新卒者の加入はN五
名E八名計十三名です。



支部総会風景

題となっています当支部も引き続き
支部長山崎修村井憲次氏(19E)由
村研一氏(S28E)三名が奔走して
います。

以上で審議と報告事項を終り会場を別室に移し乾杯の音頭は落合好明（S18N）にお願いし懇親会が始まり杯グラスを交し合い先輩後輩といわゞ学校時代の色々の思い出がつきませんでした。出席会員三三名の自己紹介は宴もたけなわの中で所感を発表していました。新旧校歌の合唱の後は（S19E）石高昭二氏（元NYK機長）の力強い音頭で万才三唱で午後九時散会しました。

出席者氏名左記の通り

◎ 附錄二

四日市支部

海の貴婦人海王丸入港

同窓会諸先輩の方々には、益々
ご清栄のことと存じます。

大西洋の白鳥海王丸が四日市に
やつてきました。

十一月八日の四田市港は快晴
澄み切つた秋空のもと、賑やかな
音色に包まれました。三年前に放送

声に乞われました。三年前に数々人の市民の目にその華麗な容姿を焼き付けた海王丸の船内一般公開

が催されたのです。午前、午後の二回に分けて開放された船内には

人が溢れ、舷梯付近には長蛇の列が続々、岸線にカメラが並び、ま

さに港の秋祭りといった楽しい
日でした。

これに先だつ六日午後、海王丸は四日市に入港しました。近い将来現役引退の声が囁かれる同船

ワエンジニアリングへ(62E)池田義昭君は三昌工業へ、また(S55N)山田哲也君は六三年四月一日より名古屋港管理組合へ就職が決まりました尚新卒者の加入はN五名E八名計十三名です。

神戸支部

(室專也記)

今こそその礎を堅固にして、彈力に富む体質を以つて将来に望まなければと意を強くしました。
海王丸の入港は、我等同窓につて、様様な、意義深いものでした。

（室 博也記）

神戸支部



(大塩記)

各氏のメンバーコース或は変わったコースに企画にも変化を求めております。皆さんも気軽に参加して下さい。

(3)神戸を訪ねて……シリーズで神戸をご案内したいと思い、第一回目は神戸海洋博物館を紹介します。今春神戸海港一二〇周年記念としてオープンした当館は皆様お馴染みのメリケン波止場と中突堤のエリアの埋立地であるメリケンパークに作られた海・船・港の総合博物館です。1Fエントランスには古化帆船から近代船に至る石造彫刻がホールを圧倒し、更に中央には日本最古の西洋式帆船をモデルにした「オショロ丸」の模型に豪華な宝石で装飾したパールシップ神戸が燐然と輝いております。

2Fには豪華クルーザーのブリッジを再現して神戸港の風景が昼間からイルミネーションに彩られた夜景に変化したり、神戸港の昨日・今日・明日をスーパー・アンタビジョンでダイナミックに描き出します。

更には三六〇度大型スクリーンによる未来の海底旅行も体験できます。新らしい建物ですが古い歴史と未来を垣間見る思いで三時間に及ぶ見学もアツと云う間に過ぎ去りました。

（大塩記）

者は少なく今回は六名でした。当支部には三十数名の会員の方が在住して居られます。乗船中や勤務の都合又は病気などで参加いたゞけるのはどうしても十名内外となります、昨年から温泉宿に一泊と云うくつろいだ会にし母校の事など語らい乍ら旧交を温めております。母校も六十三年度より航機学科を商船学科と一つの学科とし人員も半減、一方電子機械工学科の外に同系統のハイテク関連学科が新設されると云う事で本来の商船学科が陸上関連学科の多くの人員になる由で、我々同窓生としては大へん残念で淋しい限りであります。それにしても鳥羽商船と云う学校名は堅持してもらいたいものであります。

今後の同窓会のあり方についても色々とむつかしい問題があると思いますがよろしくお願ひ致します。

同窓会出席者は次の通り。

南 兵二 (S 4 E)

関門支部

田畠 秋一 (S 6 N)
大石 信 (S 9 E)
和田 道夫 (S 10 N)
藤林耕三郎 (S 19 E)
真田 勝年 (S 30 N)
以上 6名

(和田支部長記)

伊勢志摩支部

入学五十周年 記念の懇親会

鳥羽商船58期会

クラス会

ものと期待しているところです。
(支部事務局記)

（支部事務局記）



ますます元気な一同

海運界が不況という影響でしょ
うか地元の伊勢・志摩支部でもと
つておきの話題が見当らないのは
残念です。

最近会員がよく母校を訪問され
ますが、再就職の件が多いのは事
実です。しかし嬉しい訪問もあり
ます。

M.O.の名古屋支店海務課長とし
て勤務されていた野田則之会員（
(S 34 N)）が後任の村田勝久会員
(S 36 N)）が引き継ぎ訪問でわざわ
ざ来られました。話題は入試に及
び、両会員の入学当時は倍率が二
十倍あつたといまさら母校の現
在の状態が見おどりしてなりま
せん。

こんなことでは海国日本とはい
えないと云い切れましよう。

もう一つ嬉しい話題としては、
母校へ派遣教官として来て頂いて
いた金田護会員 (S 42 N) が地元
の伊勢湾フェリー株に転属されま
したので今後の本支部の若手グル
ープの先導として活躍して頂ける
となりました。

熱田神宮前「レストランべんて
ん」を集合場所として山本勇・尾
崎幸平氏が先着、次いで山崎修、
船木照生氏計四名が予定の十二時
頃到着、そろつて熱田神宮参拝し
健康を祈禱しました。JR熱田駅
を出発十四時に松風園に到着しま
したが、佐藤静雄・荒川典弥・今
高光雄・山口正雄・田中明・加藤
徳助・吉良恭一・中西三郎等も相
次いで到着、最後に野村勲の参加
となりました。

秋の日は瓶落しで午後遙かに見
えた「竹島」も眼下の三河湾の清
澄な水の色も見えなくなり、客室
より大宴会場に移動し、一八時三
〇分より懇親の大宴会を開くこと
になりました。山崎修君司会で先
づ戦死者、病死者の冥福をお祈り

皆出席 井村・山本＝万年話役 初参加 山下・日野両夫人
追而 世話を道楽とする係が十九会永続のために又道樂を。
◎十九会報（年2回）◎年会費による運営、◎多数が夫婦で出席できる為の開催方法、◎次年度開催に関するアンケート実施中です。

ふなの会

二十七年本科卒の例会である。「ふなの会」は、十月四日岐阜市ニユウ長良川ホテルで幹事役、宇田川君の、ご尽力により、鵜飼見物をかねて行われました。十回余をかぞえる「ふなの会」ですが、岐阜で行わるのは初めてです。

今はなき亀山さんも、との田中広行君の提案により、田中健介、斎藤、三君は墓前に報告に参りました。

関東組から始まり、関西組、しんがりは亀さんの靈を背にした東海組と、定刻には出席予定者全員が集まりました。

早々とホテルロビーで記念撮影をおこない屋形舟にのりこみました。今年度の終末もまじかな長良川鵜飼を楽しみました。

ふなの会



寄付金及び会費納入状況

自昭和六十二年七月一日
至昭和六十二年十一月三十日

寄付金		会費		N科		三〇、〇〇〇円		二五、〇〇〇円		一〇、五〇〇円		一、〇〇〇円		S 11 下川 満		S 38 名倉 勝		S 30 午頭 晴雄		S 29 大橋 孝行		S 21 安田 敏		S 18 本田 長尾	
S 21 西村 隆治	S 22 山本 茂	S 33 榎田 完次郎	S 26 下川 英之	S 25 水谷 昌明	S 29 長谷部 行弘	S 7 深津 薫	S 15 西岡 光雄	S 22 都地 健藏	S 38 山田 登	S 59 木本 鐘守	S 53 道畑 功勝	S 11 中野 佳篤	S 23 坂野 清	S 29 稲葉 三子夫	S 36 内海 好昭	S 21 森口 新一郎	S 30 田丸 健	S 19 山本 醇平	S 51 徳田 清司	S 49 大橋 秀章	S 33 片岡 直明	S 21 安田 孝行	S 18 本田 文彌		
S 55 山田 哲也	S 40 佐藤 隆史	S 37 中尾 幸次	S 51 柄木田 宏	S 25 水谷 启吉	S 29 岡田 千代松	S 7 七、五〇〇円	S 54 吉村 弘之	S 24 関口 昇	S 38 山田 登	S 53 中山 忠俊	S 18 久保 文計	S 21 加藤 富士雄	S 25 大山 紀一	S 27 森部 通男	S 26 河本 三郎	S 21 荒巻 常春	S 38 松山 功	S 53 坂口 浩一	S 32 白鳥 幹彦	S 59 村田 悅典	S 47 坂本 順雄	S 34 長内 悅文	S 29 門田 利治		
S 55 山田 哲也	S 51 小笠原 典城	S 38 牛場 正	S 36 村田 勝久	S 36 村田 義一	S 36 野村 勲	S 11 三、五〇〇円	S 55 高浦 義一	S 47 北村 武司	S 56 木内 清次	S 41 中野 正義	S 30 小久保 辰夫	S 21 加藤 富士雄	S 25 大山 紀一	S 27 森部 通男	S 26 河本 三郎	S 21 荒巻 常春	S 58 東 勝	S 55 谷口 次郎	S 11 神谷 義康	S 25 梅田 四郎	S 21 林 成沢	S 18 本田 長尾			
S 25 梅田 四郎	S 23 林 成沢	S 21 林 幸昭	S 21 林 好康	S 21 林 幸雄	S 21 林 義則	S 21 荒巻 常春	S 58 東 勝	S 55 谷口 次郎	S 56 木内 清次	S 41 中野 正義	S 30 小久保 辰夫	S 21 加藤 富士雄	S 25 大山 紀一	S 27 森部 通男	S 26 河本 三郎	S 21 荒巻 常春	S 58 東 勝	S 55 谷口 次郎	S 11 神谷 義康	S 25 梅田 四郎	S 21 林 成沢	S 18 本田 長尾			

専科大学名称

文教ニュース第九三五号（十二月七日発行）によれば、「国立高等専門学校協会（慶應義塾會長）

十六日、東京・霞ヶ関の国立教育会館で秋季総会を開き、当面する諸問題について協議したが、席上文部省の小林技術教育課長は「高専等専門学校を『専科大学』とする名称問題は大学設置審議会の高専分科会で一年間審議を重ねてきたが結論は出なかつた。今後は新設の大学審議会で、名称問題のみにとらわれず分野の拡大を含めた高専制度全体の振興策について審議を続けていく方針である」旨説明をした。

最大の懸案事項だけにショックを受けた国専協は、総会のほとんどの時間をこの問題にさいたが、結論がせず、十七日に臨時理事会を開いて今後の善後策を協議することにしている。

と報告されている。

華々しく打ち上げられた「専科大学」構想ではあつたが、もろくもその糸口さえつかめないままにストップという状況となり、現段階からは当分その成り行きは不透明に陥らざるを得ないだろうというのが一般的見方である。

去る六月に開催された本部総会において、母校の矢島校長が“専科大学”構想について発言され、
“専科大学”においては「鳥羽専
科大学」と地名のみをつけ「商船」
を残すことは困難という見方をさ
れていたが、同窓生としてはぜひ
「鳥羽商船」の地名を残して欲し
いところである。

特に私短協の反対は、その背景が複雑でありしかも根づよいところから勢いをもつており、文部省としても、退職職員の再就職先としての立場を考慮するとき簡単に“専科大学”を打ち出すことは困難という判断が出されても不思議

あるいは大学生と云い得るかといふ点、カリキュラムの内容は全く変らず名称のみの変更という点で大学といえるのかという点、卒業しても、学士とはいえない点、さらにはあと数年後に迫る第二次ベビーブームの名残りともいえる進学者の激減に伴う私立短期大学協会の猛烈な反対などでスムーズに運ぶとは思われない面もあつたのは事実であり、それが現実となつたという見方が強い。

“専科大学”構想は当初からあまりにも多くの問題をはらんでいたように思われる。

鳥羽寸評

小浜半島・池の浦 長期滞在型海洋レク基地構想発表

鳥羽市は、十二月七日、昭和六十九年に伊勢志摩地方で開催が計画されている「世界祝祭博」の候補地として挙げている小浜半島を、「祝祭博」だけではなく、将来は長期滞在型の海洋レクリエーション基地として開発する「小浜半島開発計画案」を発表した。

「祝祭博」は、「海、森、太陽」人間・その心とからだ」をテーマに三重県が計画を推進しているが、鳥羽市は、小浜半島に候補地を選定。昨年二月に設置した市活性化対策プロジェクトチームを中心

に、「祝祭博」後の跡地利用を含めて検討してきた。計画案によると、小浜半島西側の標高六十二メートルの山を切り崩し、池の浦三十二ヘクタールを埋め立て、陸地十六ヘクタールと合わせて四十八・八ヘクタールを造成。六十九年の「祝祭博」会場において、その後は海浜緑地（五・五ヘクタール）、マリーナ（一・六ヘクタール）、観光船ターミナル（一・九ヘクタール）、駐車場（八・一ヘクタール）、民間観光関連施設用地に三十二ヘクタールを確保、海洋科学センター、コンベンション・センターなどを誘

致する。

市は七日市議会に対し、計画案を審議する特別委員会の設置を要請したが、計画では、六十七年半ばまでに埋立造成地を完成させる予定であり、開発の事業主体は、市または第三セクターとし、費用は約百八十一億円を見込んでいた。このうち公共事業分が約百九億円、第三セクターなどが約七十一億円という方針である。

ホテル池の浦荘の開業に伴い池の浦の西側の姿がかなり変りましたが、この計画が実現されると、池の浦の東半分も大変賑やかになるわけで、池の浦の静かなたずまいという感がなくなる日もそう遠くないようです。
母校の裏手の山を切り開いて池上団地ができる以来、池の浦の水質汚染が進んで、学生の水泳はもっぱらブールという形を採らざるを得なくなりました。池の浦における真珠のイカダがまづき減った昨今ですが、市当局では美しい池の浦を保持したい気持も強いようです。

事務局からのお願い

★勤務先、住所、電話番号の変更等の連絡

勤務先、住所、電話番号等の変更については、ぜひお知らせ下さいますようお願いします。特に海運不況で転職された会員につきましてはぜひ現状をお知らせ下さい。

今回は、海運不況で転職された方の実態調査の目的で、連絡用のハガキを同封しました。

会員がお留守の場合は家族の方でぜひ返送して下さい。返送のない方は現状維持として処理しますが、転職された会員が旧職のままであることを防ぎたいと思います。

★会費の値上げ

前号でもお知らせしましたが、62年度の本部総会で会費の値上げをお願いしましたのでよろしく御協力下さい。

年会費 2,000円 (昭和61年までは 1,500円)

終身会費 20,000円 (満65才以上で会費を完納し、さらに年会費10年分を前納した者)

なお、すでに前納している分について及び、すでに終身会員の方はそのまま有効で追徴はされません。

今回会費の請求書が同封されていない方は、今年度分は納入済となっていますが、振替用紙は新会員名簿の購入用として会費納入済の方にも入れましたので御了承下さい。

★本部事務局への連絡について

本部事務局には専従職員がおりませんので、電話で連絡して頂いた際、授業や出張等校務のため失礼することが多くなって参りました。会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。緊急の場合を除いて、手紙またはFAX 0599-25-6941(母校庶務課設置)をご利用下さいますようお願いします。

新会員名簿発行(昭和62年度版)

10月5日に新会員名簿を発行しました。すでに多数の会員に購入して頂きましたが、ご希望の方はぜひ注文して下さい (残部はあまり多くありませんので早目にお願いします)。

代金 1冊 2,500円 (送料込)

乗船中や海外出張中の方は家族の方から申込んで下さい。

